

# 診断京都

社団法人 中小企業診断協会京都支部

No.100  
2012年 夏号



## 診断京都100号に向けて

一般社団法人京都府中小企業診断協会 会長 山脇康彦

このたび機関誌「診断京都」第100号を発行する運びとなりました。本誌は1969年の創刊以来、京都支部の広報誌として、また会員相互の研鑽、絆づくりの糧として、その役割を果たして参りました。この間の企画、編集、寄稿等々に対する会員並びに関係各位のご尽力とご協力に厚く御礼申し上げます。

京都支部は本年4月1日に一般社団法人京都府中小企業診断協会（京都協会）を設立しました。会員の多様性など良いところを引き継ぎつ

つ、環境変化に対して自ら変化し、新しいことに挑戦し、中小企業の発展のみならず、様々な分野で社会に貢献して参ります。本誌が100号を機に、これまでの役割を果たしつつ、会員各位にとって京都協会の目指す「変化、挑戦、貢献」の拠りどころとして発展していくことを願う次第です。

結びにあたり、会員諸氏のご健勝を祈念申し上げ、第100号発行のご挨拶といたします。

## 中小企業診断協会京都支部第53回通常総会、 一般社団法人京都府中小企業診断協会第1回総会を開催

中小企業診断協会京都支部の第53回通常総会および、一般社団法人京都府中小企業診断協会の第1回総会が平成24年5月26日、京都駅前の京都タワーホテルで藤井明登常任理事の司会により開催されました。これに先立って同日に、協同組合京都府中小企業診断士の第13回通常総会も上田清副支部長の司会により開催されました。

53年の歴史に幕を閉じた京都支部最後の総会では、昨年度の事業及び収支決算が報告され無事承認されました。総会終了後、ご列席の歴代支部長から京都支部の思い出と新法人に期待することのメッセージを賜り、参加していた方々は感慨深く聞き入っていました。

一般社団法人として再出発をした京都府中小企業診断協会の初めての総会では、事業計画及び収

支予算案が付議され質疑応答も活発に行われ、原案どおりの内容でスムーズに可決承認されました。役員改選については、全員一致の推挙により山脇康彦氏が新会長に就任するとともに、新たに18名の理事及び監事が選任されました。

総会后、17時20分からは会場を別室にかえて懇親会が杉村麻記子理事の司会により開催され、多くの来賓とともに終始活発な交流が行われました。ご来賓の方々からは、新法人への期待など温かいお言葉を頂戴いたしました。

また恒例の新入会員紹介のコーナーでは、新規登録の診断士の方だけではなく、ベテラン診断士の方が新たに新法人に参加されることとなり、さまざまな思いのこもったコメントに大きな拍手が送られ懇親会は盛況のうちに終了しました。（杉村麻記子）



# 歴代支部長に聞く

## 京都支部の思い出と新法人に期待すること ～歴代支部長のご挨拶より～

社団法人中小企業診断協会京都支部（以下京都支部）は本総会をもって53年の歴史に幕を閉じました。本稿では、総会後にご参加いただいた歴代の支部長より頂戴したお言葉を織り交ぜながら、京都支部の歴史を振り返ります。

### （社）中小企業診断協会京都支部53年の歩み

昭和34年8月に京都支部が創設され、初代支部長は大木勇氏が就任。機関誌「診断京都」が創刊されたのは昭和44年です。その年に「中小企業診断員」は「中小企業診断士」と改称されましたが、日本経済の高度成長に伴い京都支部でも活発な支援活動が行われました。

昭和45年には第2代支部長として中谷弥太郎氏が就任。続いて、第3代支部長は黒川倉市氏が務められ、平成元年には京都支部設立30周年の式典が開催されました。

平成2年に第4代支部長に就任された黒崎徳之助氏は当時を振り返り、「私が支部長を拝命した当時は中央組織にて決定されたことを地方に展開する『トップダウン型の組織』でした。中小企業の京都の町を振興するため地方から中央に上げていく『ボトムアップ』となる協同組合組織設立をめざし、中小企業の成長に役立つように邁進しました」と話されていますが、この黒崎氏の想いは、平成7年に品川弥太男氏が第5代支部長として就任された後、平成11年に『京都府中小企業診断士会』の設立により果たされることとなります。

平成10年には、京都支部の事務所が新たに設立されました。「私が支部長に就任するまでは、支部の事務所は支部長の事務所という慣例でした。新たに専用の事務所を設立するため、京都で最適な拠点となる京都産業会館に狙いを定め、事務所に空きがでるまで近隣のビルで待ちました」という品川氏の念願が通り、H13年には京都産業会館に移転を果たしました。

平成14年に第6代支部長に安田徹氏が就任された後、中小企業診断士制度は変革を迎えます。当時の様子を「診断協会の本部委員会に参加し、当時の協会会長より新しい診断士制度について説明がありました。この時出席していた本部理事の多くが新制度や今後の診断協会に対する懸念点を表明したことが大変印象に残っています」と、安田氏は振り返られています。

そして玉垣勲氏が第7代支部長を務めた平成18年に中小企業診断士制度は改正されました。

平成19年に第8代支部長として山崎忠夫氏が就任。構造的な不況やグローバル化が進展する中で診断士に求められる役割がますます重要と

なってきました。その対策の一つとして『事業対応型研究会』が新たに発足。「これから診断士が業務を受注し信頼を得るためには、助言の品質を高める必要があります。そのためには事前に勉強をして備えていくことが大切です。この考え方に基づく研究会をつくり、そこには企業内診断士の方にも参加していただけたことが大変良かったと思います」と山崎氏。

平成23年に第9代支部長として山脇康彦氏が就任し、平成24年3月31日をもって京都支部はこれまでの歴史に幕を閉じ、同年4月、法人格を持った「一般社団法人京都府中小企業診断協会」として新たに歩み始めました。

### 一般社団法人京都府中小企業診断協会に

#### 期待すること

総会にご列席の歴代支部長より、新法人に期待することについて、温かい激励のお言葉を賜りました。以下の通りご紹介いたします（抜粋）

#### 黒崎徳之助 第4代支部長

失われた20年を経て、今後の診断制度の必要性をどう考え日本の中小企業をどのように育ててくか方向性が定まらない厳しい情勢の中で、新法人はゼロからの出発となります。京都の中小企業の振興のために、若い先生方が先頭に立って頑張ってください。

#### 品川弥太男 第5代支部長

アジアなどの新興国の台頭に対応するためには、楽しく魅力のある産業の振興が大切だと思います。斉藤一人さんは、納税額日本一の実業家で、楽しく明るく魅力のある経営哲学を提唱された方です。新組織においても、斉藤さんの哲学を参考にしてください。

#### 安田 徹 第6代支部長

新たに設立される法人に期待することは、私からあれこれ申し上げるより、新しい組織は新しい方々に担っていただきたいと考えております。

#### 山崎 忠夫 第8代支部長

「事業対応型研究会」を、今後はさらに発展させ、「事業開発型研究会」として、新しい事業を開拓して頂きたいです。企業内診断士の方がさらに参画できる形を模索してください。

歴代支部長のみなさまどうもありがとうございました。（杉村麻記子）



<写真キャプション>

左から、黒崎徳之助氏、品川弥太男氏、安田徹氏、山崎忠夫氏

★ **これからの中小企業支援において、**  
 ★ **一般社団法人京都府中小企業診断協会に期待すること** ★

近畿経済産業局長 長尾 正彦

このたび昭和35年8月から発行されている「診断京都」が、記念すべき100号を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。



貴協会は、昭和34年8月に社団法人中小企業診断協会京都支部として設立され、本年4月には一般社団法人京都府中小企業診断協会として新たな一歩を踏み出されました。

この間、中小企業診断士の資質向上や診断・指導業務を活発に展開され、京都府下中小企業の振興と地域経済の発展に大いに貢献してこられたことに深く敬意を表します。

貴協会に期待することとして次の3点述べさせていただきます。

第一に、財務、経理を中心としたコンサルタント機能のさらなる向上への取り組みです。平成21年12月に施行された中小企業金融円滑化法が来年の3月に期限切れを迎えます。これに伴い、多くの中小企業の資金繰りが懸念されています。中小企業に対して、事業内容の工夫や経営革新への取り組みを促す際には、財務、経理面におけるアドバイスが重要です。貴協会の研修会等を通じて財務・経理に強い中小企業診断士を多く育てていただきたいと思っております。

第二に、中小企業の海外展開を支援する取り組みです。これまで、企業が海外に進出することにより国内産業が空洞化するという懸念が抱かれてきたところですが、本社機能や研究開発部門が国内に残ることで海外子会社からの資金環流により研究開発や設備投資がむしろ促進されているとい

うことが判ってきました。こうした中、「国際業務に必要な知識がない」、「国内業務で手一杯である」等の理由により、海外展開を躊躇している中小企業が少なくない状況にあります。貴協会に蓄積された経験や知識を活かし中小企業の海外展開を積極的に支援する活動を行っていただきたいと思います。

第三に、他の士業団体や中小企業支援機関との一層の連携・協力の強化です。中小企業が抱える課題は多種多様であり、中小企業診断士単独ではすべてをカバーすることは難しいと思われま

す。法律問題であれば弁護士、税務問題であれば税理士といった専門士業との連携に加え、補助金等公的支援制度については、国、自治体、中小企業支援センター等との連携・協力を一層密にされることで指導・助言が一層確かなものとなり中小企業の成長が加速するものと思われま

す。最後に、貴協会の今後益々のご発展を祈念して私の貴会に対する期待の言葉とさせていただきます。

中小企業基盤整備機構 近畿本部 本部長 小淵 良男

「診断京都」第100号の発刊、おめでとうございます。



貴協会は設立後長年にわたり、中小企業に対する経営指導、助言を行う専門家集団として、京都府内の中小企業の振興、地域の活性化に大いに貢献して来られました。

その間、中小企業経営の課題は売上高増大や生産性向上を目的とした部門管理を中心としたものから、グローバル化の進展やIT化への対応、異業種企業をはじめ農林漁業者や医療福祉分野等との連携による新事業の創出など複雑化・高度化し、中小企業診断士に求められる業務も、企業成長戦略を実行するための具体的な経営計画の策定と実践の支援まで幅広いものへと変化しています。

このような状況のなかで、国や都道府県等では、中小企業を取り巻く環境変化に対応したソフト面や資金面などのきめ細かな中小企業施策を用意していますが、肝心の中小企業者や金融機関等が制度の存在や内容を知らない場合が多いのが実態です。

中小企業診断士には上述した企業の成長戦略策定やその実行のためのアドバイス機能に加えて、中小企業と行政・金融機関等を繋ぐパイプ役、また、専門的知識を活用しての中小企業施策の適

切な活用支援についても大きな役割を担っています。

中小企業診断士自身による知識の習得やネットワーク構築の努力は当然必要ですが、貴協会として会員に対する研修、情報の収集・提供、そして行政等支援機関との緊密なネットワーク構築の努力が今後ますます重要になってくるものと思われま

す。私ども中小企業基盤整備機構(中小機構)は、国の中小企業施策の総合的実施機関として、全国に9つの地域本部を設置し、中小企業の抱える課題や要望について、さまざまな具体的支援を行っています。なかでも、中小企業に対する海外展開支援は中小機構として最も力をいれている事業の一つになっており、今年度からは海外生産拠点設立や販売先の開拓に向けた事業計画の策定を支援するF/S支援事業を新たに始めています。これは国内では事前情報の収集・分析の支援、海外現地では現地に精通した専門家や通訳等が同行し、実務的なアドバイスを行うものです。これら機構の支援業務を実施するにあたっては、外部専門家および支援機関の協力が必要不可欠です。貴協会および会員である中小企業診断士の皆様のご支援・ご協力を従前にも増してよろしくお願い申し上げます。

★ **これからの中小企業支援において、**  
 ★ **一般社団法人京都府中小企業診断協会に期待すること** ★

京都府商工労働観光部 商業・経営支援課長  
**門 道夫**

京都府中小企業診断協会の会報が発刊から100号を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。



診断協会の皆様には、日頃から京都府政の推進に格別の御支援、御協力を賜っておりますことを、厚くお礼申し上げます。

さて、昨今の中小企業を取り巻く環境は、昨年の東日本大震災や歴史的な円高不況などにより依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のなか、診断協会の皆様には、中小企業に対する経営指導の専門家集団として、行政、府内公的機関、ならびに個別の中小企業に対して幅広い支援活動を展開していただいておりますことを大変心強く思っております。

財団法人京都高度技術研究所 経営支援部長  
**神原 浩之**

会報「診断京都」第100号の発行おめでとうございます。中小企業診断協会におかれましては、経営診断事業をはじめ、調査・研究事業や情報活性化事業などの幅広い支援活動を展開され、また、京都高度技術研究所におきましても、長年にわたりワンストップ相談窓口に従事いただいたほか、経済情勢の変化に応じた様々な事業に御協力をいただいております。長年にわたります会員各位の中小企業の振興発展に対する御熱意と御努力に対しまして、深く敬意を表します。



本年度、京都市では、京都経済を取り巻く厳し

京都商工会議所 中小企業経営支援センター  
 所長 **西田 敏光**

第100号の発刊という節目にあたり、心よりお祝い申し上げますとともに、日頃は中小企業支援にご尽力され、深く敬意を表します。



長引くデフレ不況、超高齢化社会の到来など、経営を取り巻く環境は日々厳しさを増すばかりです。中小企業の抱える課題も、資金繰りの改善や事業承継対策など、多様化・複雑化しており、幅広い経営課題に的確・迅速に対応でき、経営改善に向けた多面的な支援が可能な中小企業診断士の役割は、今後ますます重要になってくるものと存じます。

貴会におかれましては、本年4月より一般社団法

京都府中小企業団体中央会 連携支援課 主任  
**鈴木 実**

このたびは、「診断京都」第100号が発行されますことを心よりお祝い申し上げます。



さて、我が国は、国内産業の構造変化や国際社会での競争が激しさを増すなか、中小企業が直面する経営課題は、多様化・複雑化しています。そのなかで、中小企業が潜在力を活用して経営力を強化していくためには、働く人材の育成・充実が必要であり、貴協会において会員相互の連携により、多様な能力を発揮した支援を期待しています。

本会では、中小企業庁が平成23年3次補正で事業

す。

京都府では、こうした様々な課題に立ち向かうため、商工会等の経営支援員の皆様を中心に御活躍いただいております「中小企業応援隊」の活動により、府内4万社の訪問を通じた中小企業の皆様のバックアップを昨年引き続き行うとともに、イノベーションのための設備投資への支援、さらには海外市場の開拓の支援や伝統産業の若手育成等の施策を展開しているところです。

今後は、中小企業円滑化法の終了に向けての出口戦略についても対策が必要となつてまいります。これからも診断協会の皆様ともしっかりと連携して府内産業の振興・発展に努めますので、引き続きの御支援、御協力をよろしくお願い申し上げますとともに、京都府中小企業診断協会の更なる発展を心から祈念申し上げます。

い状況の中、下支え支援から成長発展までをオール京都の体制で推進するため、京都商工会議所との連携による経営相談窓口の充実などが図られております。このような中、京都高度技術研究所では、これまで以上に、他の産業支援機関との連携やオスカー認定制度を核とした中小企業の成長支援を推進して参りたいと考えております。

中小企業診断協会におかれましては、この4月から、一般社団法人に移行され、新しいスタートを切られるとともに、事務局をASTEM棟に移転されております。オール京都による新たな中小企業振興の取り組みの推進のためには、中小企業のビジネス・ドクターである、皆様方の御指導・御支援が必要となりますので、より密接な連携とお力添えのほど、よろしくお願い申し上げます。

人となられ、さらなる中小企業支援に向けて新たな歩みを始められましたが、当所においても同様に、4月より「中小企業経営支援センター」に名称を変更して一層の機能強化を図っております。また、本年10月、当所は設立130周年の節目を迎えますが、「[知恵産業のまち・京都]の実現に取り組み、地域経済や雇用を支える小さくともキラリと光る内需型の中小企業を数多く生み出し、京都の発展に寄与して参ります。

我々が支援すべき“中小企業”とは、新たな産業を創出し、雇用を生み出し、地域経済社会を担う経済の屋台骨を支える存在です。今後も中小企業支援の専門家である皆様と力を合わせ、積極的な経営支援に取り組んで参る所存ですので、変らぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

化した「地域中小企業の人材確保・定着支援事業」の採択を受け、平成24年度から3ヶ年の予定で府内中小企業の人材確保と定着支援に向けた取り組みを行います。

本事業は、大学生等が府内中小企業に就職することを促進させ、確保した人材の育成や定着を進めていくための総合的な仕組みづくりや、各機関・団体等が実施する事業の情報収集・調整、事業連携の推進、さらに必要な事業の企画・運営等の協議調整を行います。

オール京都体制でのプラットフォームを目指し、5月には「京都府中小企業人材確保・定着支援協議会」を設置しました。今後、同協議会を核にしつつ、中小企業の人材確保と定着に向けた事業展開を進めて参りますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

公益財団法人京都産業21 お客様相談室長  
井上 茂

京都府中小企業診断協会の会報が100号の節目を迎えられましたことを心より喜び申し上げます。

日頃より皆様には、当財団の専門家派遣事業をはじめ、経営者育成大学などにもご支援をいただいております、厚くお礼を申し上げます。

当財団では、平成24年度を初年度とする第3次中期計画を策定し、中小企業の皆さんと同じ現場目線に立ち、国内外の販路開拓、各種の連携や経営力の強化、情報提供、相談の5つの重点施策を掲げ、その推進に懸命に取り組んでおります。

京都府中小企業診断協会の皆様には、中小企業の当面の課題解決に対する支援はもちろんのこ



京都信用保証協会 業務部長 中西 康成  
「診断京都」100号の発行おめでとうございます。昭和35年からの歴史ある発刊に心より敬意とお祝いを申し上げます。

府内中小企業を取巻く環境は、円高の進行や欧州債務危機、電力不足等による先行き不透明な状態が続いており、依然として厳しい状況にあります。

このような厳しい環境下においても、中小企業が元気になっていただくためには京都府中小企業診断協会様のコンサルティング機能への期待は大きく、診断協会様の活躍が苦しい中小企業の存続を左右させるものと言っても過言ではないと思



日本政策金融公庫 京都支店  
国民生活事業統轄 高田 一富  
一般社団法人京都中小企業診断協会様の会報「診断京都」が節目の第100号の発行を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。

永年にわたり、貴協会の皆さまが、地域経済の振興・発展のために、たゆみないご努力とご支援を重ねてこられたことに、深く敬意を表する次第であります。

特に、新たな事業の創造は歴史ある京都においても重要であり、貴協会による創業者へのコンサルティング活動は地域振興に大きく寄与しているものと考えます。

また、中小企業諸団体に対する経営の近代化、産業・町おこし支援事業についても、歴史と伝統を守りつつも変革を必要とされる近代社会にお



京都府商工会連合会 経営支援部長 谷村 六夫  
会報「診断京都」100号の発行、心からお祝い申し上げます。

京都府中小企業診断協会におかれましては、山協会長様はじめ役員の皆様が一丸となられ、府内中小企業を取り巻く経営環境は世界経済の減速、円高、電力需給問題、デフレ等々、企業収益の悪化に益々拍車がかかり厳しい状況に追い詰められている中、日ごろからの支援にご尽力をいただいておりますこと誠に有難く感謝に堪えません。

当会では、厳しい現況の中で歯を食いしばって頑張っている小規模事業者等の経営課題の解決を支援するため、中小企業診断士等の専門家を現地・現場へ派遣する制度(エキスパート・バンク)によ



と、持続ある安定経営を図るための具体的な中期目標の設定や経営計画、さらには、社長の片腕となる人材の養成といった喫緊の課題に対しても、積極的に取り組みいただいております、大変心強い限りです。

現在、当財団では、重点事業の一つとして、中小企業の海外販路開拓についても力を注いでおり、特に中国市場へのビジネス展開支援のため、京都府上海ビジネスサポートセンターを核として、出展支援や企業交流により、広く商談機会を確保するため6月には京都企業の魅力ある製品を一堂に紹介する上海常設展示場「日本京都館」を開設しました。

今後とも中小企業の方々の支援のため、京都府中小企業診断協会の皆さんと連携を強め取り組んでまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

ます。今後とも身近な「企業の町医者」として、的確なアドバイスと経営指導を期待いたします。

わが京都信用保証協会におきましては、最重要課題に金融円滑化法終了を見据えた出口戦略として「金融と経営の総合的サービスの推進」を掲げ、企業の破綻回避に向け、直接対話を重視する「保証利用企業へのサポート」の強化に取り組んでおります。

それには、専門家集団である中小企業診断協会様との連携が最も重要であると考えており、今後ともご指導・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、一般社団法人として新たにスタートされた京都府中小企業診断協会様のますますのご発展をお祈りいたします。

て、今後益々のご活躍を期待しております。

公庫といたしましても、「創業・海外展開」に関するサポートデスクを新設し、創業者向けの無担保・無保証人の融資制度「新創業融資制度」の融資限度額を引上げ、「海外展開ローン」を新設するなど時代のニーズに合わせた相談態勢をとっております。

また、設備資金について、当初2年間の利率を年利0.5%引下げる制度も継続し、設備投資意欲の喚起を通じた経済の活性化による被災地支援にも取り組んでおります。

今後とも、公庫は貴協会との連携を通じて、地元の中企業の発展に取り組んでいく所存ですので、今後ともご支援をお願いいたします。

結びに、貴協会の益々のご繁栄と、会員の皆さま方のご健勝を心から祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

り機動力と実効性のある支援を行っているところであります。

そんな中で、金融円滑化法が25年3月まで最終延長されることになりました。延長にあたり、国は金融機関のコンサルティング機能の一層の強化や中小企業の再生支援にも踏み込む一方で、経営実態に応じた債務者区分・引当の実施等を金融機関に求められるようになったことから、小規模事業者等の資金繰りはますます難しくなるのではと懸念しており、財務と経営の一体的な支援が喫緊の課題になっています。

こうした支援を実施するには、貴会の皆様のご支援なくして実行は不可能であり、今後更なるご支援ご協力を切にお願い申し上げますとともに、貴会の益々のご発展をお祈りいたします。

変化・挑戦・貢献	山脇 康彦
伝統を重んじ変革を	小宮山 衛
知と誠による地域貢献	松田 茂
祝！千紫万紅・百花繚乱	上田 清
診断士の資質向上支援	辻 一幸
全員で盛り上げよう！	岡原 慶高
充実した再出発を！	杉村麻記子
帆を揚げて風上へ	松井 宏次
元気、根気、覇気	今井 俊和
二人三脚で築く信頼	廣下 幸洋
顧客の潜在欲求を叶う	林 勇作
愛と感動を、大切に！	大井 義雄
知的ブレークスルー	横倉 幸司
貢献こそ存在価値	久保 憲司
君が必要だ！！	坂本 淳
幸福は分かち合うもの	松野 修典
好之者不如樂之者《論語》	神戸 壯太
京都元気創造応援協会	藤村 正弘
感度を高める	渡邊 文恵
経営にも基本がある！	川村 浩一
異才能組成で顧客満足	恩村 政雄
常に、前進あるのみ！	坂田 岳史
人・店・街の共栄へ！	長澤 満
知的ネットワーク	古谷 武徳
人を創り、価値(勝)を創る	坂本 洋
地球を笑顔にする仕事	藤井 健志



診断

100号

これからに

会員の

始末してきばる 三宅 裕之  
 皆で追う果てしなき夢 西河 豊  
 更なる飛躍 大堀 誠  
 上善水の如し《老子》 秋田 英幸  
 会員満足UPで活性化 岩橋 亮  
 次の100号へ継続は力 成岡 秀夫  
 温故知新 学びあい前進 山崎 忠夫  
 祝 萬事成功!! 北村 和一  
 常に誠実に! 多田 知史  
 無事之名馬《起源については諸説あり》

谷口 真

信賴・発展・貢献 東 和男  
 独立不羈 田中 義郎  
 さらなる発展を! 安田 徹  
 知行合一 伊東 伸  
 個と組織の止揚が課題 中村久吉  
 啐啄 小山 俊一《碧巖録》  
 心は青春、そして成熟 竹下 富彦  
 鶏口牛後 田中 徹  
 奉仕と繁栄 そして調和を 黒崎徳之助  
 今日最高上気元 品川弥太男《斉藤一人》  
 夢に向って共に歩もう 清澤 康弘  
 パラダイムシフト 山本 知美  
 バラエティ班担当で 高見 啓一  
 現状維持は退歩なり 足立早恵子

《 》内は出典(順不同)

京都  
 記念!  
 向けての  
 ひとこと



## 京都支部の行事予定

5月26日(土)	通常総会(済)	11月14日(水)	経営革新支援研究会
7月29日(日)	理論政策更新研修	11月28日(水)	近畿ブロック会議
8月2日(木)	理事会	12月6日(木)	理事会
8月8日(水)	経営革新支援研究会	12月(日付未定)	会員交流セミナー
8月1日(土)	経営革新支援研究会	12月12日(水)	経営革新支援研究会
9月6日(木)	常任理事会	1月10日(木)	常任理事会
10月4日(木)	理事会	1月(日付未定)	新年祝賀会
10月6日(土)	理論政策更新研修	2月7日(木)	理事会
10月16日(火)・17日(水)	中信ビジネスフェア出展	2月9日(土)	会員交流会
11月1日(木)	常任理事会	2月13日(水)	経営革新支援研究会
11月7日(水)	中小企業経営診断協会 シンポジウム	3月7日(木)	常任理事会

## 編集後記

昭和44年10月に第1号が発行された「診断京都」ですが、今号で100号を迎えました。くしくも、平成24年4月1日に一般社団法人京都府中小企業診断協会として新たなスタートを切った直後というタイミングに重なりました。

100号記念特別号として通常とは異なる編集となった今号ですが、発行に当たって、各支援機関様よりたくさんの温かいお言葉を賜りました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

また、社団法人中小企業診断協会京都支部において過去、支部長を務められた4名の皆さまに京都支部の歴史を振り返って頂いたとともに、現会員各位からは今後に向けた力強いひとことが集まりました。今号を通して、過去と現在、そして、未来が一本につながったような気

がします。ご協力頂きました皆さま、誠にありがとうございました。

今後、この診断京都を読者の皆さまにとってより有益なものとするよう、編集担当一同、心を新たに頑張ってお参りたいと思っております。

(編集担当一同)

診断京都

No. 100

2012年7月発行

一般社団法人京都府中小企業診断協会

〒600-8815 京都市下京区中堂寺南町134番地

京都リサーチパーク ASTEM棟301号室

TEL (075) 325-5731

FAX (075) 325-5675

メールアドレス info@shindan-kyoto.com

ホームページ <http://www.shindan-kyoto.com/>

印刷所 株大気堂 TEL (075) 361-2321

FAX (075) 361-5047